

## Ⅶ.がん患者に対するピア・サポート体制に関する がん診療連携拠点病院等への調査

改訂委員会 委員長 小川 朝生  
国立がん研究センター 先端医療開発センター 精神腫瘍学開発分野

### A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

がん対策推進基本計画（第3期）において、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが個別目標に掲げられている。

本事業では、上記の課題に対応するために、研修プログラムの改訂をおこない、各都道府県への情報提供等を進めてきた。

今後、各都道府県がピア・サポートへの支援を進めるうえで、がん診療連携拠点病院と連携を図ることは重要である。がん診療連携拠点病院の新たな整備指針では、がんサロン等においてピア・サポートの積極的な活用が盛り込まれた。しかし、一方でがん診療連携拠点病院においてどの程度ピア・サポートが活用されているのかは把握されていなかった。ここでは、がん診療連携拠点病院におけるピア・サポートの実態を把握し、今後の支援方法を検討することを目的に、がん診療連携拠点病院に対してアンケート調査を実施した。

### B. 経過

がん診療連携拠点病院 408 か所のがん相談支援センターを対象に、ピア・サポートに関する取組みについての自記式アンケート調査を実施した。

調査は郵送法にて調査用紙を配布し、2022年10月5日(水)～11月30日(水)で回答を依頼した。329施設より回答を得た(回収率80.6%)。

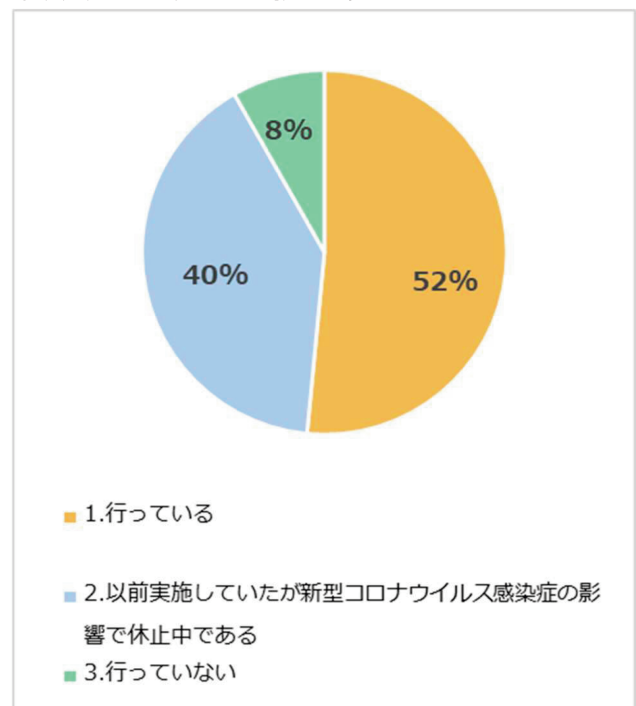
### 回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

(1) がん患者及びその家族を対象とした講演会、レクチャー、がん教室の実施状況

患者・家族を対象とした取組みを行っている・行っていた施設は9割にのぼった。新型コロナウイルス感染症の影響により、約半数が中止していた。

(問1)\*貴施設では、がん患者及びその家族を対象とした講演会、レクチャー、がん教室を行っていますか。



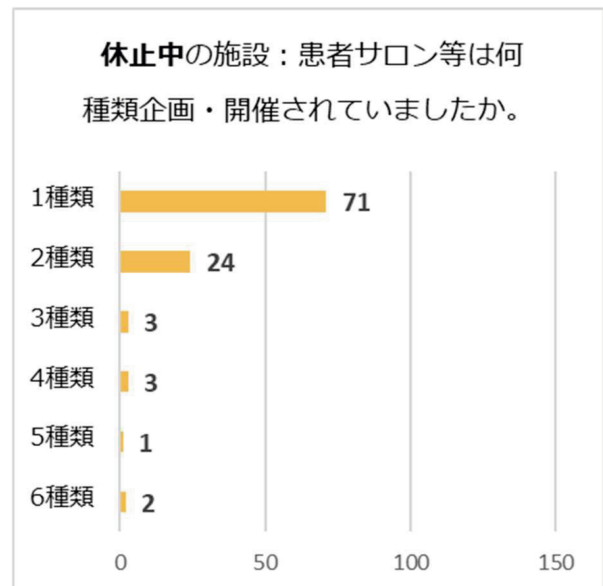
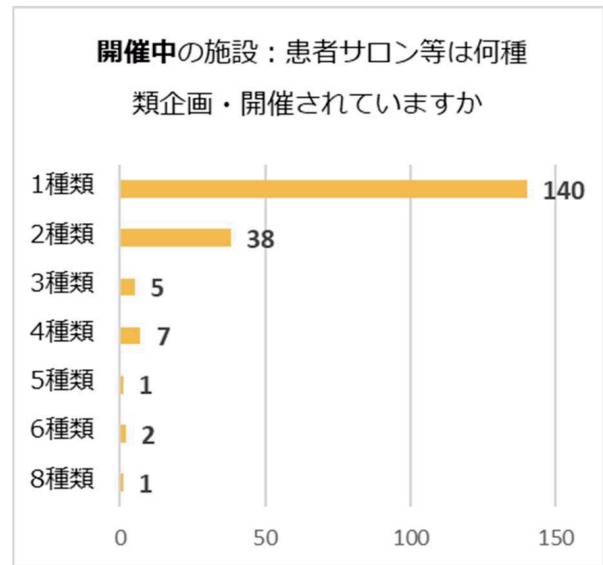
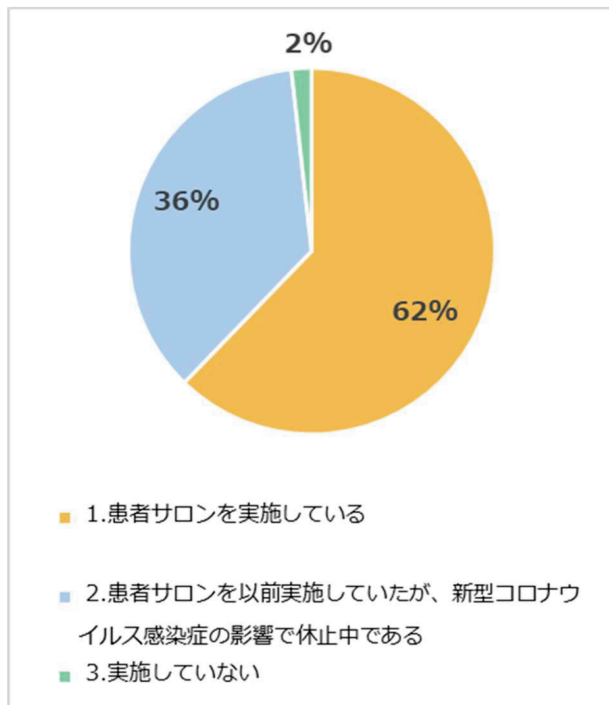
(2) 語り合うための患者サロン等の場の実施状況

がんサロンを持つがん診療連携拠点病院は 9 割以上であり、約 3 割は新型コロナウイルス感染症の影響により休止していた。

多くの拠点病院では、がんサロンは 1 種類に留まっていた。

(問 2) \*貴施設では「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の取り組みは実施されていますか。

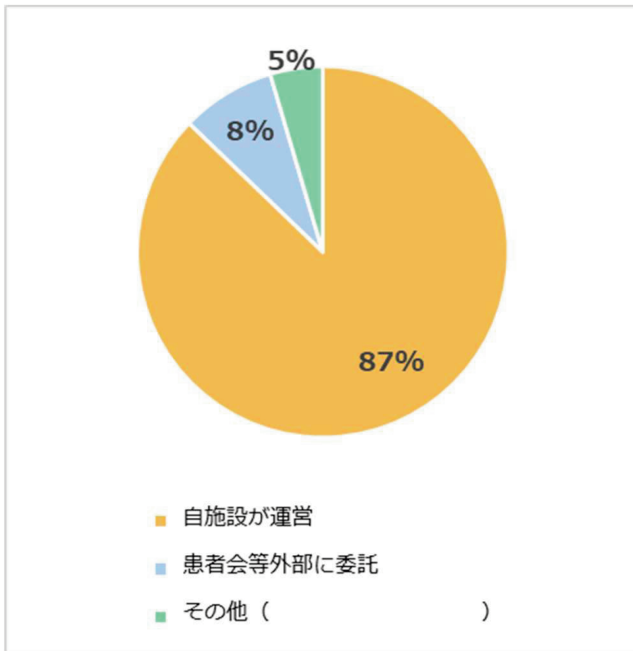
ここには「がん患者及びその家族を対象とした講演会、レクチャー、がん教室」は含みません。



(3) 患者サロンの実施状況① ～運営主体～

がんサロンの運営に関しては、9割弱の施設が自施設主体で運営していた。

(問 3-1)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の活動内容について具体的に教えてください。 1：実施主体

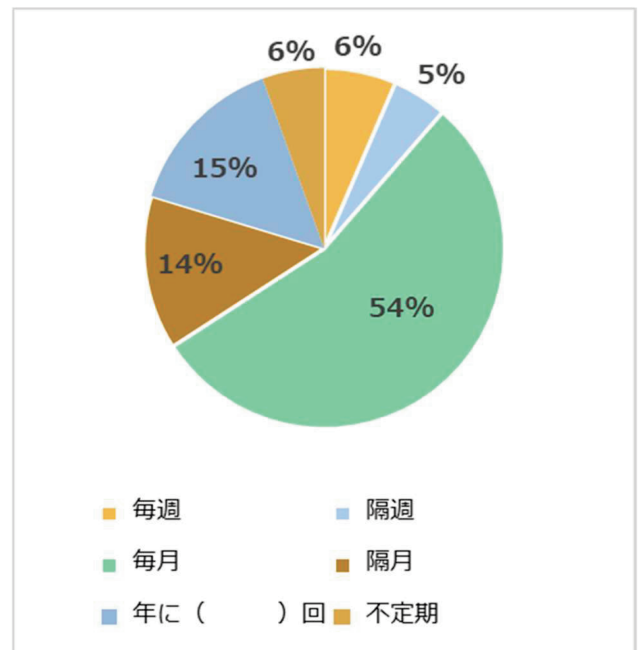


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(4) 患者サロンの実施状況② ～実施頻度～

がんサロンの開催頻度は、半数が月1回程度であった。

(問 3-2)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の活動内容について具体的に教えてください。 2：開催頻度



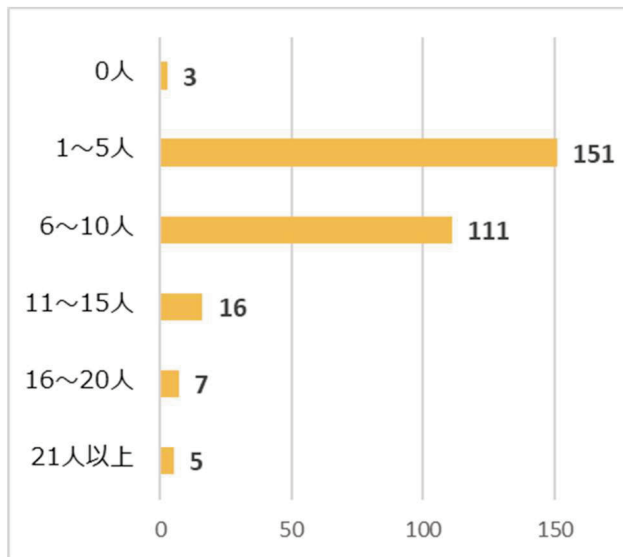
※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

Ⅶ. がん患者に対するピア・サポート体制に関するがん診療連携拠点病院等への調査

(5) 患者サロンの実施状況③ ～参加人数～

がんサロンへの参加者数は、半数が 1-5 人に留まっていた。

(問 3-3)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の活動内容について具体的に教えてください。 3：参加人数（平均）



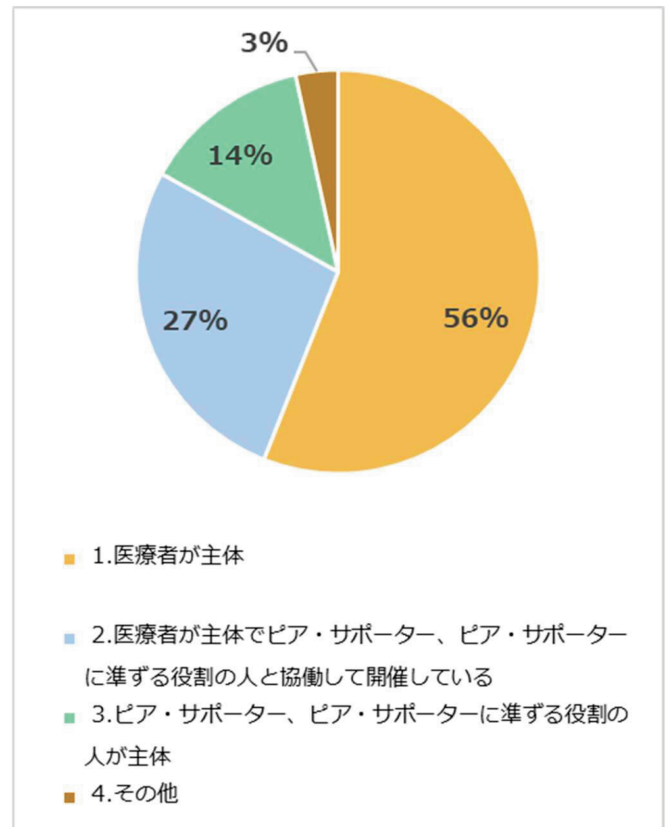
	人数(人)
平均値	6.8
中央値	5

※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(6) 患者サロンの実施状況④ ～運営主体～

がんサロンの運営は、自施設の医療従事者中心が 56%であり、ピア・サポーターとの共同は 27%であった。

(問 4) (問 3) の運営は誰が行っていますか。どれか一つお答えください。

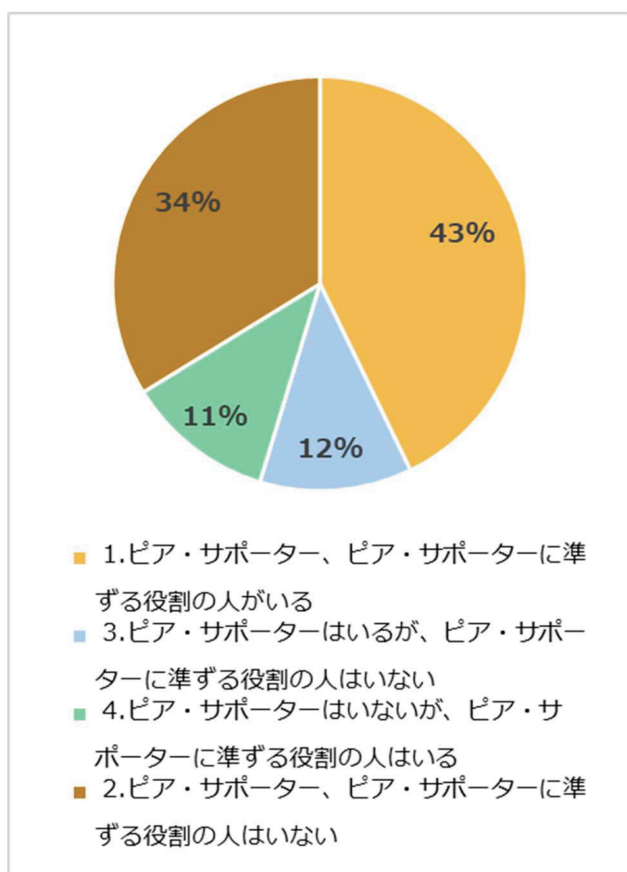


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(7) 患者サロンの実施状況⑤ ～ピア・サポーターの関わり～

がんサロンにおいて、ピア・サポーターが関わっている施設は約半数に留まっていた。

(問 5) (問 3) の取り組みの中にピア・サポーター、それに準ずる役割の人はいますか。どれか一つお答えください。

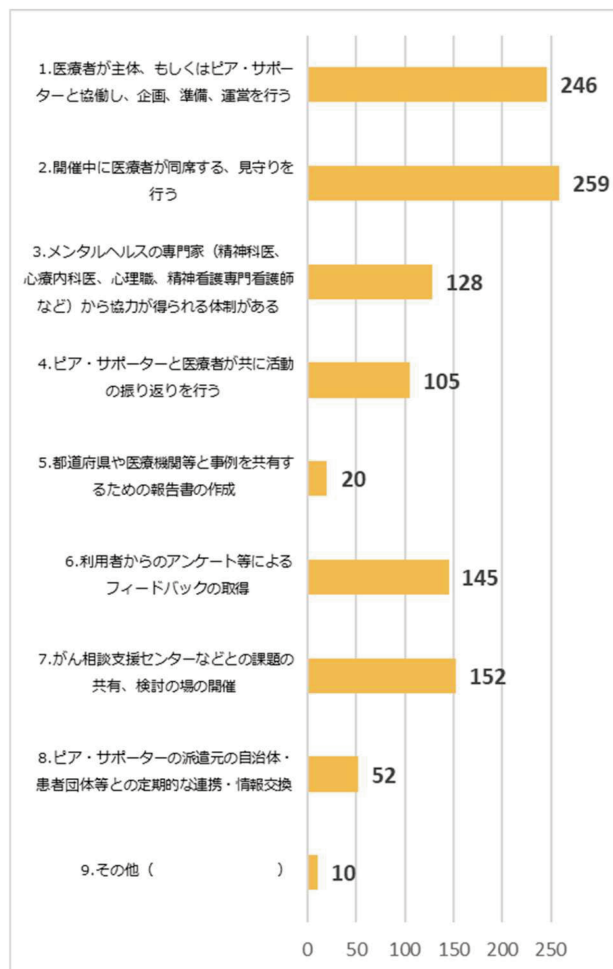


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(8) 患者サロンの実施状況⑥ ～医療者の関わり～

がんサロンの運営に、医療従事者は企画や運営、開催中の見守りを中心に役割を担うほか、精神心理の専門家との連携等を行っていた。一方で、ピア・サポーターの振り返りの実施は相対的に少なかった。

(問 6) (問 3) の取り組みに関して、医療職の方のかかわり方について当てはまるものにすべて✓をつけてください。

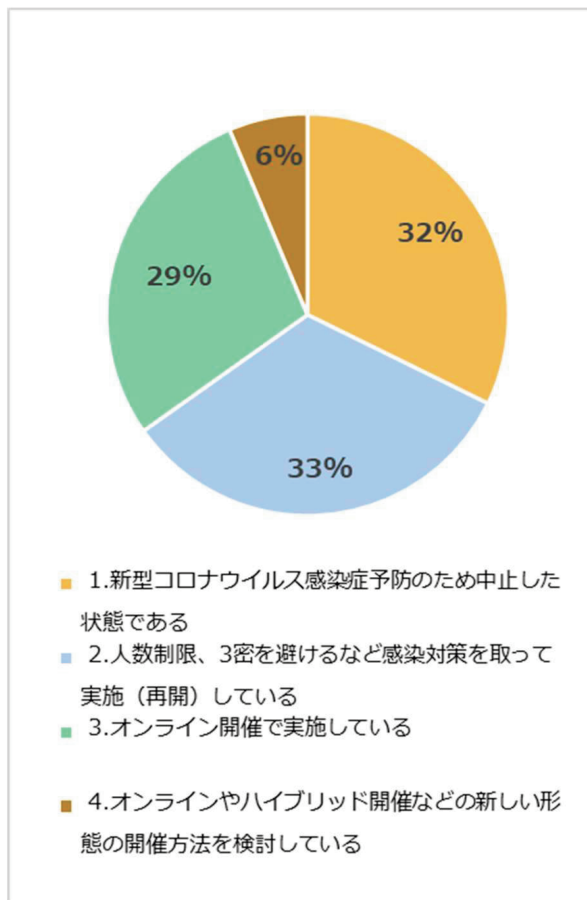


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(9) 患者サロンの実施状況⑦ ～コロナ禍での対応～

新型コロナウイルス感染症の流行により、医療機関は厳格な感染予防策が求められた。その影響を受け、1/3 は開催できない状況が続いていた。一方で、感染対策を行いつつ何らか運営を工夫して再開した施設が1/3、オンライン等で開催をした施設も30%程度あった。

(問 7) (問 3) の取り組みについて、コロナ禍での対応をどれか一つお答えください。

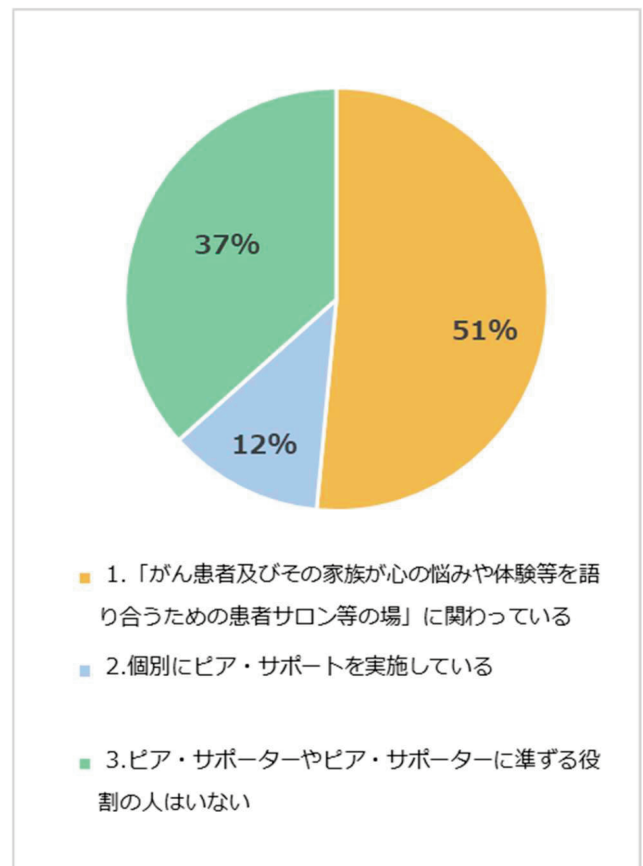


※最も開催頻度の多い患者サロン等の場について回答。開催中、休止中両方含む。

(10) ピア・サポーターの活動① ～施設でのピア・サポーターの活動状況～

がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターががんサロンや対面相談など、なんらかの活動を行っている施設は約半数であった。

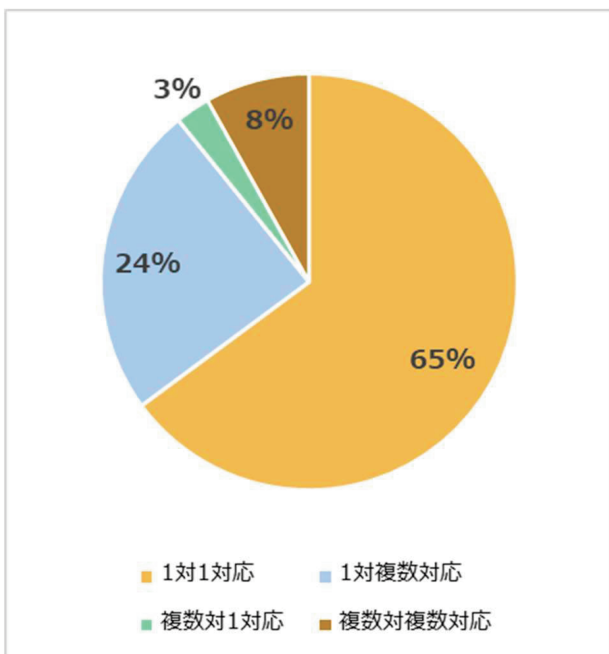
(問8)\*貴施設ではピア・サポーターやピア・サポーターに準ずる役割の人が、「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」に関わっていたり、がん患者及びその家族に対してピア・サポートを個別に実施したりしていますか。当てはまるものに✓を入れてください。



(11) ピア・サポーターの活動② ～個別のピア・サポート活動状況～

ピア・サポーターが個別の対応をしている医療機関では、主として1対1の対面での支援活動であった。

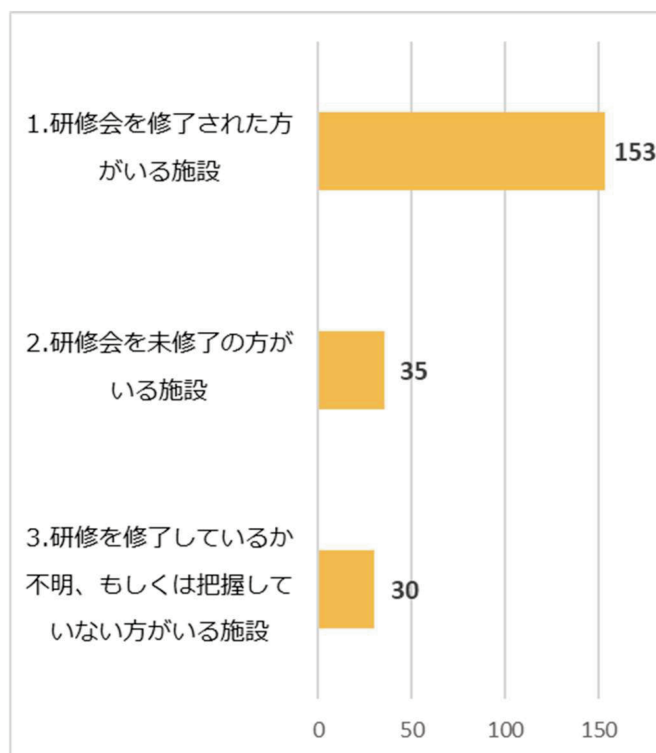
(問 8-2)個別にピア・サポートを実施している。  
→相談者( )人に対してピア・サポーター( )人で対応



(12) ピア・サポーターの活動③ ～ピア・サポーター養成研修の修了状況～

がん診療連携拠点病院で活動しているピア・サポーターの内、7割強は養成研修を終えていた一方、研修を受講していない、あるいは受講したかどうか不明の施設もあった。

(問 9) 貴施設のピア・サポーターやピア・サポーターに準ずる役割の人は、ピア・サポーター養成研修会を修了されましたか。当てはまるものにすべて✓を入れてください。



※問 8 で施設にピア・サポーター、ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

Ⅶ. がん患者に対するピア・サポート体制に関するがん診療連携拠点病院等への調査

(13) ピア・サポーターの活動④ ～活動人数～

がん診療連携拠点病院間でのピア・サポーターの活動人数は、施設間差が大きいものの、2-5 名程度であった。

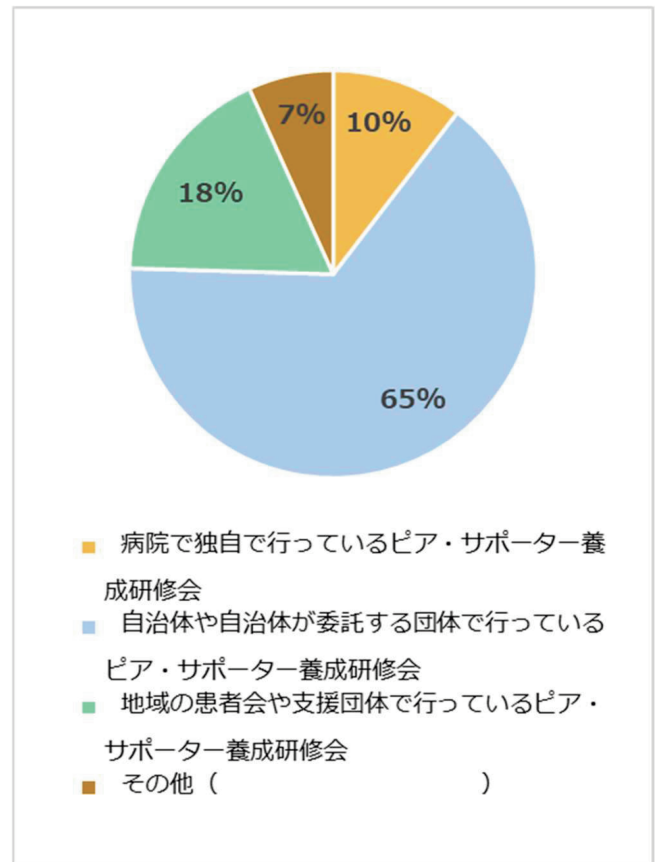
	施設数	1施設あたりの平均人数(人)※	最大	最小
1. 研修会を修了された方がいる	153	4.6	100	1
2. 研修を未修了の方がいる施設	35	2.0	5	2
3. 研修修了したか不明・把握できていない方がいる	30	3.5	18	1

※不明、人数無記入の施設は含めていない

(14) ピア・サポーターの活動⑤ ～研修受講～

ピア・サポーターの養成は、自治体レベルでの研修会を利用している施設が 65%と多く、施設独自での開催・養成は 10%であった。

(問 9)ピア・サポーターのうち、ピア・サポーター養成研修会を修了された方がいる場合→修了者が受講した研修にすべて✓を入れてください。



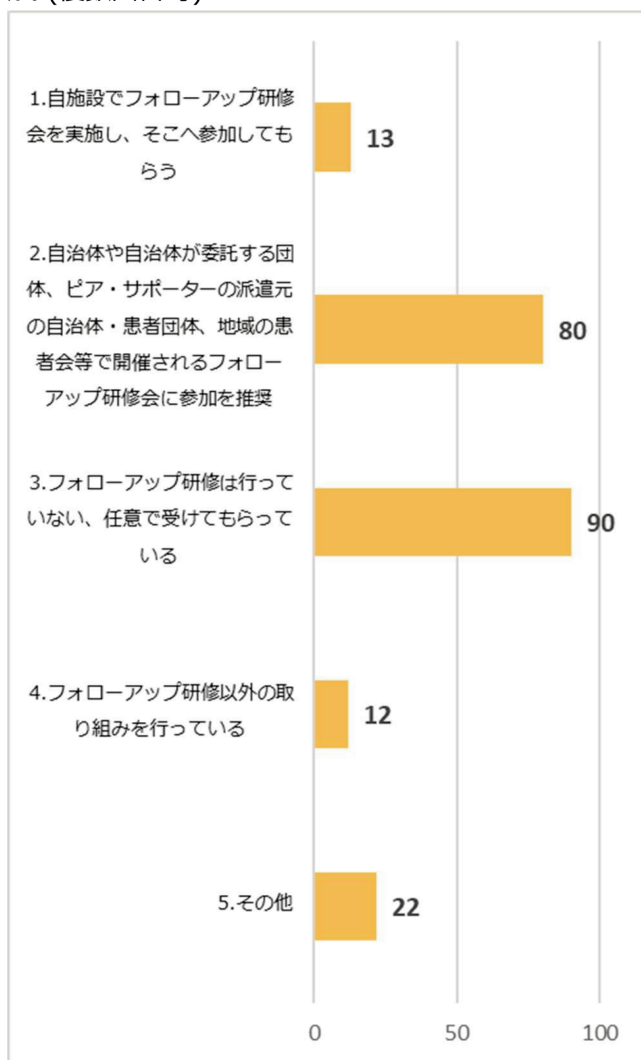
※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象



(15) ピア・サポーターの活動⑥ ～フォローアップ体制～

がん診療連携拠点病院の約半数は、ピア・サポーターのフォローアップ等質の向上に関する取組みはなかった。

(問 10) 貴施設のピア・サポーター、ピア・サポーターに準ずる役割の人へ、質の向上を目指した取組みは行っていますか。(複数回答可)

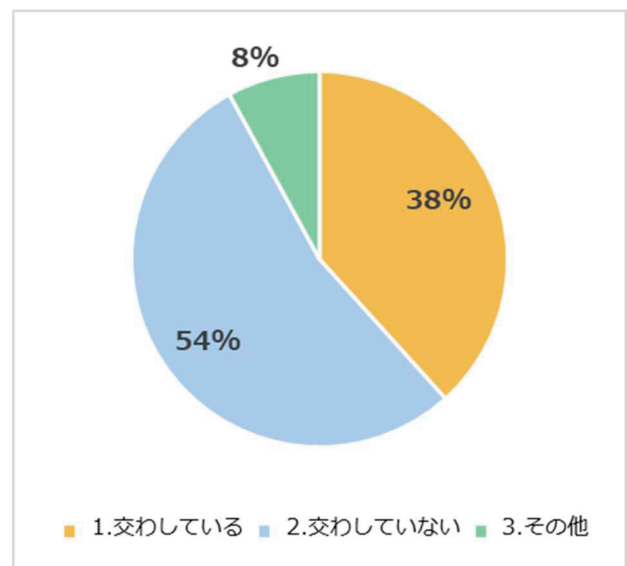


※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(16) ピア・サポーターの活動⑦ ～契約書・覚書～

ピア・サポーターとの連携において、覚え書き等役割や活動を明示している施設は 4 割弱であった。

(問 11) 貴施設で実施される患者サロンや個別対応等の活動に関わるピア・サポーターと、何らかの契約書や覚書などを交わしていますか。当てはまるものに✓を入れてください。



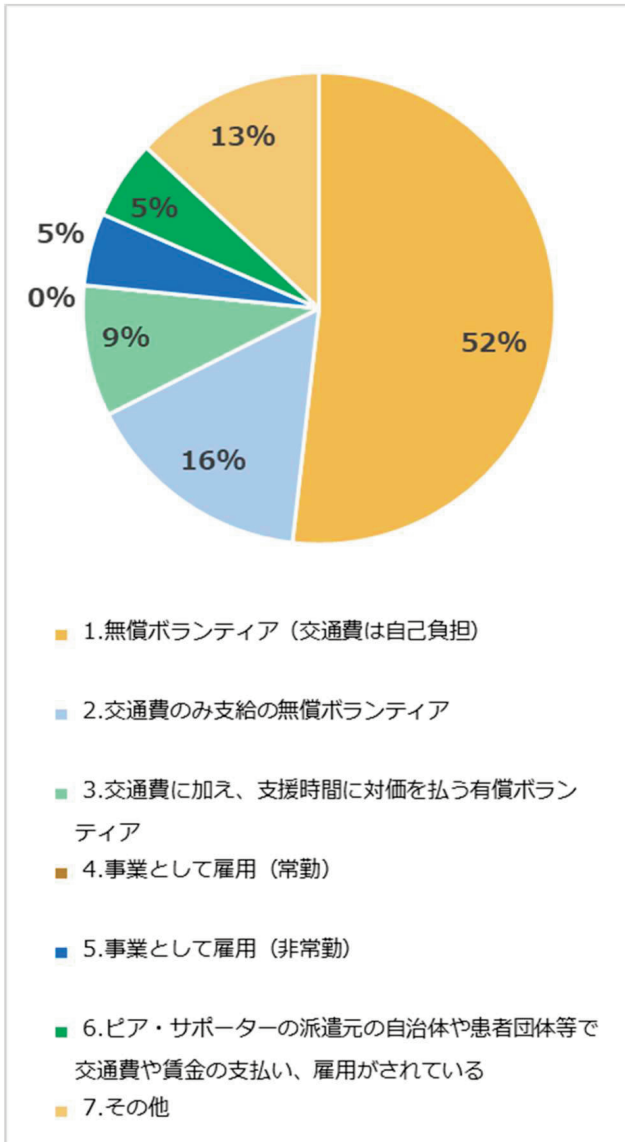
※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

Ⅶ. がん患者に対するピア・サポート体制に関するがん診療連携拠点病院等への調査

(17) ピア・サポーターの活動⑧ ～待遇～

雇用等何らかの対価が支払われている施設は 20%、交通費のみの支給がある施設は 16%であった。

(問 12)貴施設で実施される患者サロンや個別対応等の活動に関わるピア・サポーターは、どのような待遇ですか。当てはまるものにすべてに✓を入れてください。

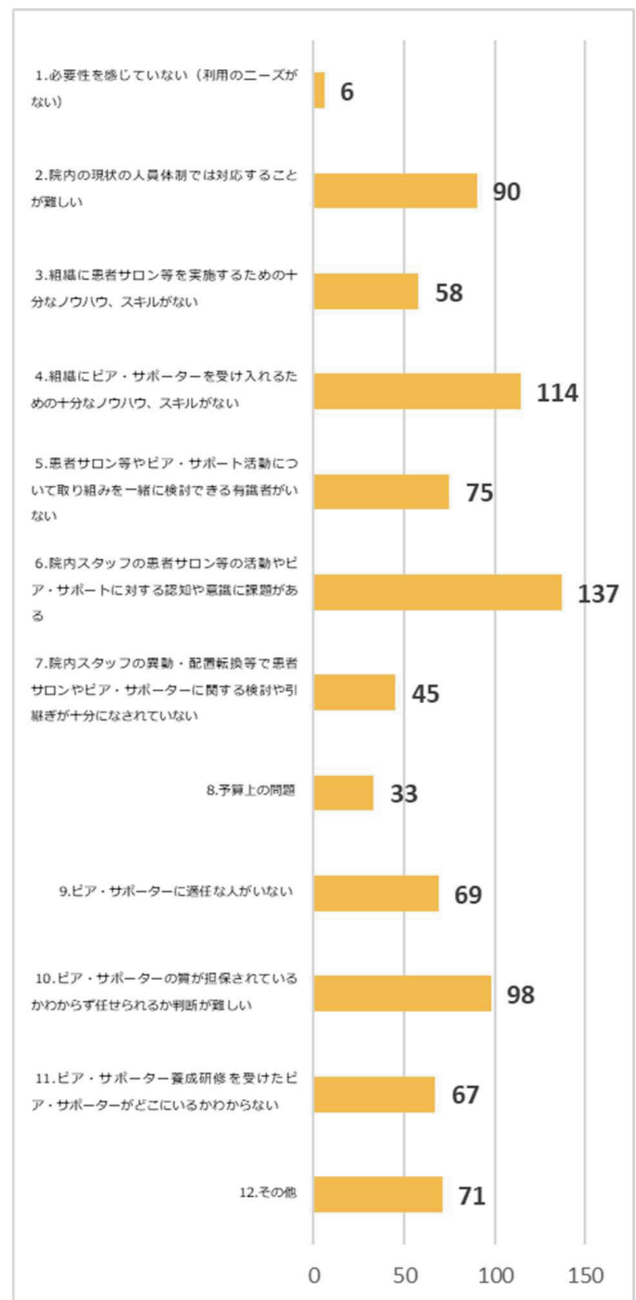


※問 8 で施設にピア・サポーター・ピア・サポーターに準ずる役割の人がいると答えた施設が回答対象

(18) 患者サロン運営・ピア・サポーターとの協働の課題

がん診療連携拠点病院においては、ピア・サポート活動に対する認知が課題として最も多くあがり、受入れる院内体制がその次にあがった。

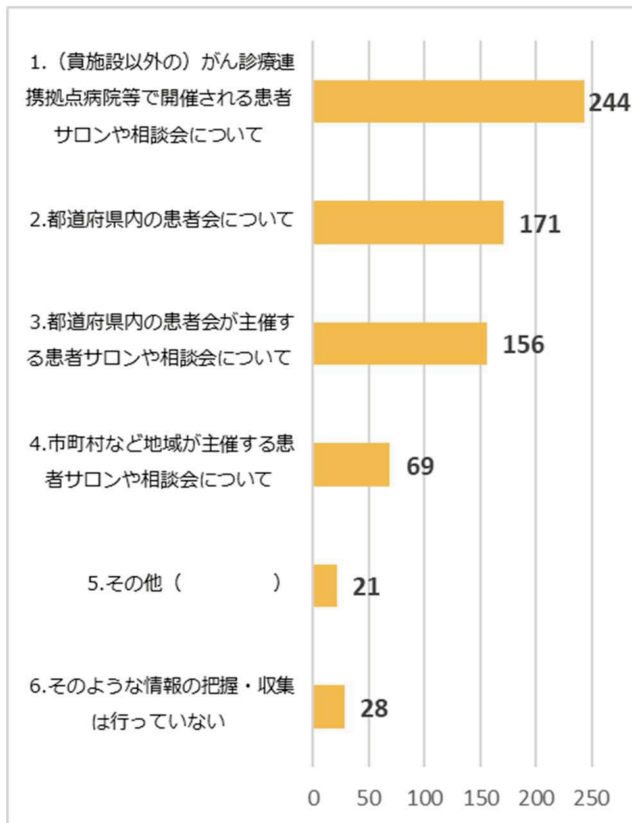
(問 13)「がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場」の運営、ピア・サポーターとの協働について、課題や懸念と感じていることはありますか。(複数回答可)



(19) 他拠点病院等の患者サロン等との連携や情報共有

他のがん診療連携拠点病院での活動や都道府県内の患者会を中心に情報収集は行われていた。

(問 14)\*貴施設では、(貴施設以外の)都道府県内拠点病院等の患者サロン等との連携や情報共有、地域の患者会での活動といった情報収集はしていますか。行っている場合、どのような情報を把握しているか、当てはまるものすべてに✓を入れてください。



C. 考察

がん診療連携拠点病院におけるピア・サポート活動の実態について、横断的な調査を実施した。

今回の調査の主要な結果は下の通りである。

- ・ がん診療連携拠点病院の約9割で、がんサロンは開催されていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、感染予防策が強く求められることから、開催が中止されたままの施設が約3割ある一方、感染予防策を行った上での開催やオンライン開催等の対応を進めている施設

も広がってきている。

- ・ がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターががんサロンや対面相談など、なんらかの活動を行っている施設は約半数に留まっていた。
- ・ ピア・サポート活動の質の担保やピア・サポーターの燃え尽きを防ぐ上で重要となる開催後のふり返りの実施がなされている施設は約半数に留まっていた。
- ・ ピア・サポーターに対する医療機関内での認識、受入れ体制に関する課題があがった。

第4期がん対策推進基本計画に向けて、がん診療連携拠点病院の整備指針の改定が行われ、がんサロン等においてピア・サポーターの活用が盛り込まれた。ピア・サポートは、がん患者・家族への心理社会的支援の基盤を成す活動である。ピア・サポーターの養成は一医療機関で実施するのは難しいことから、行政と医療機関との連携が重要である。しかし、行政とがん診療連携拠点病院がピア・サポートについて検討する場を持っている都道府県は4分の1にとどまっていること、院内のがんサロンの活動との連携に限られていることが明らかとなった。がん診療連携拠点病院において、ピア・サポーターの受け入れが半数に留まっている背景には、医療機関内でのピア・サポート活動に関する認識が途上であること、そのため、ピア・サポートをどのように実施するのか、整備に関する議論が進んでいないことが考えられる。今後、がん診療連携拠点病院においてピア・サポートの普及とピア・サポーターの活用を進めるうえで、医療従事者に対して、ピア・サポート活動とはどのようなものであるか普及を進め、あわせて、ピア・サポート活動が継続する上で重要となる支援体制についてもそのノウハウを伝達することが求められる。

また、県内のがん診療連携拠点病院間でのがんサロンやピア・サポートに関する情報共有の場は限られている課題もある。これは、ピア・サポートの養成が行政のみで行われがちであること、がんサロンに関しても県レベルでの議論になりにくいことも関連している。がん診療連携拠点病院間でのピア・サポート活動に関する情報の共有を促す仕組み作りも重要である。

第4期がん対策推進基本計画においては、ロジックモデルを採用することが検討されている。今回の調査で用いた指標を活用することで、がん診療連携拠点病院におけるピア・サポートに関する取組みをより細かく検討し、展開を進める上でも役立つ可能性がある。